

校内研究だより#7

社会に適応PT

第6学年 おおたの未来づくり 「地域の安全なくらしについて考えよう」

《授業について》

11月17日水曜日、今年度7回目となる校内研究授業を行いました。今回の校内研究は、「大田区防災危機管理課や学校運営協議会からの評価を基に、子ども防災訓練を実施する」ことをねらいとして授業を行いました。今回は、その様子をお伝えいたします。

①【開会式～受付】

開会式では、授業者が「今回は何について学ぶのか」という意識付けを行うところからスタートしました。

受付は、机をジグザグに配置するといった工夫や列が空いたら大きな声や拳手で呼び寄せるといった工夫が見られ、スムーズに受付をし、体育館へ誘導することができました。また、体育館では、毛布を一枚ずつ丁寧に手渡し、避難スペースへ誘導することもできました。



③【片付け・閉会式】

防災訓練が終わった後は、片付けです。原状復帰にするために、自分たちが使ったものを協力して、てきぱきと片付けることができました。

閉会式では、代表児童が今回の訓練やその準備を通して学んだことを伝えました。また、大田区教育委員会や東京大学教授からは、今回の防災訓練に関する価値付けを行っていただきました。



②【体育館にて】

(1)夜の避難所体験

停電した夜の避難所を体験できるように、消灯したり、カーテンを閉めたりしました。また、暗い中で歩く体験を通して感じたことを、5年生児童や保護者にその感想をもらいました。

暖房を消し、寒い中で毛布に包まり目をつむる体験をしました。避難者はこのような状況の中で、とても不安や困難を抱えていることを体験し、実感的に理解することができました。

(2)訓練を通して考えてもらいたいことの発表

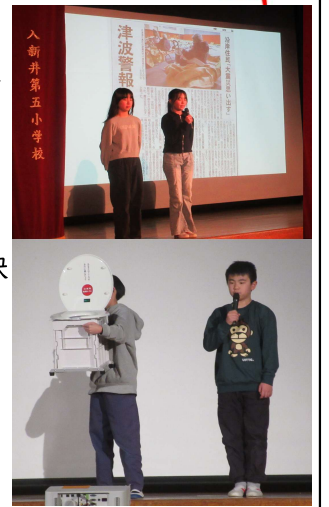
先週あった青森県沖地震の報道や内閣府による首都直下型地震のシミュレーションを放映し、その悲惨さや日頃から備えておくことの大切さを伝えました。

(3)避難所のトラブルを劇で紹介

避難所では様々なトラブルがあります。実際に、東日本大震災や能登半島地震で起こった避難所におけるトラブルを劇で紹介しました。

(4)防災備蓄庫の備蓄品の紹介

本校の防災備蓄庫にあるものについて、実物を見せながら紹介しました。



指導・講評

◎ 「発表して終わり」という活動ではなく、下学年に伝えたり、地域とのつながりを持ち続けたりするというおおたの未来づくりが求めている姿があった。

◎ 「防災を学ぶ」のではなく、「防災を通して学ぶ」こどもの具体的な姿が見られた。例えば、実際に想定される困りごとを抱えている方への対応や避難所を効率よく運営するための工夫など。

△ 避難者に対して「してあげる」だけにならない取組をしていきたい。避難者の不安を取り除く活動と避難者の全ての要望に応えるような取組との線引きを考えられるとよい。

△ こどもがもつ目標を達成することも大切だが、地域の課題をクリアすることができたかどうかを振り返ることも大切。
・ 「ダイナミックなゴール」は大切。しかし、目指すべきは、「やってみてどう変わったか」ということをこども自身が実感し、様々な場面で生かせるようにすることである。



昨年度の振り返りと
学校運営協議会からの
要請を確認

今年度のコンセプトを
決めるための話し合い①



今年度のコンセプトを
決めるための話し合い②



今回のコンセプトは…

共助の力で地域を救う

こども防災訓練の
内容を考える



実際の場面を想定して、
防災訓練に使うものを
考えたり作ったりする



互いに役割を交代し、
改善点を伝え合う



クリエイション



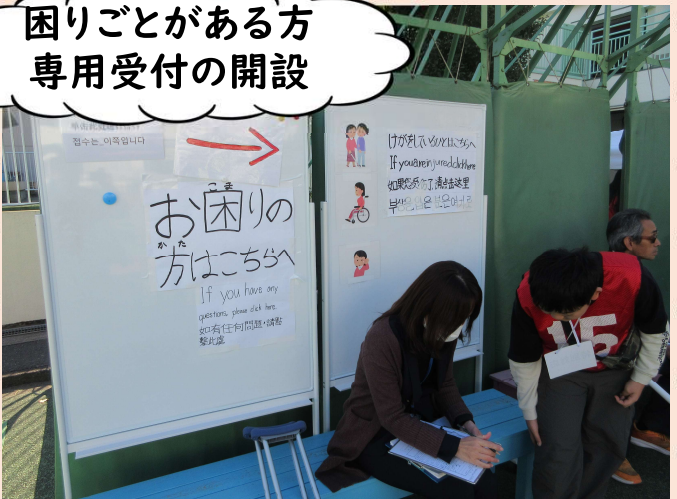
避難所設営
体育館準備



毛布の配付



地域住民・保護者・
5年生が参加



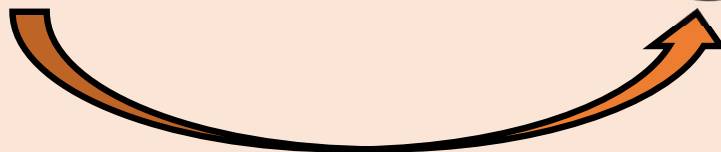
困りごとがある方
専用受付の開設



避難者誘導
まとまった人数を体育館へ



避難者受付
視覚障害者への対応



避難所の様子



避難所の後片付け



避難所の夜を想定して体験



訓練後
評価付け



災害時の様子や
その危険性を
実際の地震災害の
動画を見て学ぶ



避難で起こるトラブルを
劇で紹介

